



## 意見交換会の開催結果について



令和8年1月21日、25日に本地丘小・森孝東小・森孝西小及び森孝中の保護者の方、未就学児の保護者の方及び地域の方を対象とした「本地丘小学校・森孝東小学校・森孝西小学校の統合及び森孝中学校との併設(案)」に関する意見交換会を開催し、延べ34名の方にご参加をいただきました。

意見交換会での主なご意見やメールでお寄せいただいた内容等に対する教育委員会の考え方をまとめました。より詳しい内容は市公式ウェブサイトをご覧ください。なお、ご意見等について、内容をまとめさせていただき作成しています。

本地丘小・森孝東小・森孝西小における取り組みのウェブサイト  
(意見交換会説明資料や、ご意見に対する考え方の詳細を掲載しています。)

<https://www.city.nagoya.jp/kodomo/schools/1027693/1016995/1016810/1016833/1016858/index.html>

右の二次元コード、または市公式ウェブサイトのサイト内検索で

森孝 取り組み

検索



長期推計を見ると、森孝東小と森孝西小の児童数には大きな変化がありません。本地丘小の児童数はさらに減少していくと見込まれているため、早急に本地丘小と森孝東小を統合することが望ましいと思います。

小学校2校は存続させ、児童数に変化が起きた時点での対応を望みます。



本地丘小、森孝東小、森孝西小はいずれも小規模校であり、特に本地丘小の小規模化は著しいため、早急に小規模校の解消に取り組んでいきたいと考えています。

なお、本地丘小と森孝東小だけを統合しても小規模校のままとなっています。そのため、森孝西小を含め3校の統合が必要であると考えています。

本地丘小の小規模化は計画に基づき、令和10年4月統合を目標として、解消していきたいと考えています。



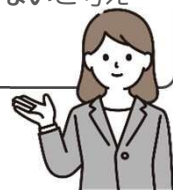
森孝中の場所で併設校が完成した時の小学校と中学校の子どもを合わせると約450名と聞きました。

同じ敷地に多くの子どもが生活することになると、大人の目が届かなくなるかもしれないと心配しています。



小学校272名、中学校181名で合わせて450名程度の学校というのは、小学校と中学校を併設で運用していくことを考え合わせても、むしろ、比較的小規模な学校であると考えています。小学校と中学校それぞれの学校には必要な教員数を配置しますので、目が届かないという心配はないと考えています。

その上で、クラス替えができる適正規模の学校になります。



クラス替えのできる適正規模の学校とすべての学年において1学年1クラスの小規模校では、教育や子どもたちの成長等にどのような違いがあるのか、実証的に説明してほしいです。

その違いから、明らかに適正規模であると課題がなく、小規模だと課題があるのか、また、小規模の程度によってどの程度、課題が生じるのかについても教えてほしいです。



小規模校では、適正規模の学校と比べて、行うことができる活動に限りはありますが、少ない人数なりに充実した学校生活となるように、精一杯の工夫と努力を重ねて教育活動を行っています。お尋ねのあった教育活動や子どもたちの成長においての違いについて実証されたデータはありません。これまでの統合したケースでは、統合後の子どもたちに対してアンケートを取っており、下記のような結果が出ています。

Q:「人数が増えましたがそのことをどう思いますか」

A:丸の内小 「良かった」約7割、「まあまあ良かった」約2割

A:たかし小 「良かった」約6割、「まあまあ良かった」約3割

※2校ともに約9割の児童が「良かった」「まあ良かった」と回答しています。

Q:「人数が増えたことで、友だちや遊びについてどのように変わりましたか？」

A:2校ともに、約8割の児童が「友だちが増えた」と回答しています。

これらの結果は軽視してはいけないものと考えており、これは望ましい教育環境にした結果、子どもたちにこのような変化があったことを実証的に示すものだと考えています。



安全面から、小学校と中学校の子どもたちが日常生活の中で接触する機会を減らす配慮をする説明でした。それなら、そもそも小学校と中学校を一緒にする必要はないと思います。



今回の併設案の策定にあたって、次のような考え方で3小学校の統合と中学校との併設が適切であると考えています。

①小規模校を解消するために3小学校を統合する必要がある。

②小学校の統合場所は通学距離が2km以内となる森孝中の場所が適切である。

③中学生にとっても森孝中の場所が、敷地や運動場の広さ、施設等で適切である。

児童生徒の体格差に配慮した安全の確保を行う一方、小学校高学年の授業を中学校の教員が担当することや行事の合同開催など、小中併設を活かした取り組みを行う予定です。

子どもたちにとって統合はとても不安なことだと思いますが、どのような対策を考えていますか。



統合は、子どもたちにとって環境が大きく変わるので、不安を感じることがあると考えています。その不安への対策のひとつとして、統合を決定した学校では、スクールカウンセラーが講師となり、「新しくできる友だちと仲良くなること」や「困った時に周りの大人と相談すること」を学ぶ「心の学習」を全ての学級で行っています。

また、統合前に、統合する学校の子も同士で交流を行っていくことが大切なことと考えています。これまでの統合校では、下のような交流活動を行い、統合に対する不安を減らし、統合を楽しみに思えるような取り組みをしています。

- ・中津川野外学習のキャンプファイヤー、科学館のプラネタリウム投影の見学を合同で実施。
- ・同じ学年の子どもたち同士で交流会を開催。
- ・作品展の際に、相手校へ行って作品を見て、メッセージカードを送る。等



3校統合することによって、特別支援学級の1クラスあたりの人数が多くなって、支援が行き届かなくなるか心配しています。



特別支援学級は障がい種ごとに設置することになっており、1クラスの上限は8人までとなっています。8人を超えた場合は障がい種ごとに2クラスに分けていきます。

統合したことによって、特別支援学級1クラスの人数がそのまま合計されるのではなく、障がい種ごとの人数に合わせた学級が開設されますのでこれまでと変わらない支援を行うことができます。



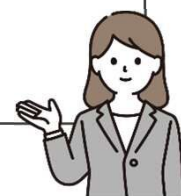
小学校の学区の広さが何倍もの範囲に広がったら、これまでのような地域コミュニティでの活動は困難になると思います。小さな学区で子どもの



顔が見える関係があるからこそ子どもを見守ることができると思います。

これまでの統合校の事例では、学区活動については、従前と同じ学区単位で活動をしていただいています。統合校の児童数についても、統合後に大幅に減っている学校はなく、統合後に学区活動が無くなった事例もありません。

これまでも地域活動で子どもたちと繋がりをもっていたいていいるのは、大変ありがたいことだと考えています。統合しても子どもたちは毎日、学区を通学していきますので、引き続き見守っていただけるとありがたいと考えています。



小中学校の併設という新しい形を検討していただいております。それがよりよい方向となるように、意見交換会を開いていただいております。しかし、寄せられた意見に対して、教育委員会からの回答は、「ご理解ください」ということが多く、意見が活かされたと感じられず、残念に思っています。



意見交換会においては、数多くの貴重なご意見をいただいております。現在は、具体的な取り組みプランを作成する段階であり、そのために皆様からご意見等をお聞きする機会として意見交換会を開催しているところです。

また、施設設計の際や、新しい学校づくりの際にも、皆様からいただいたご意見を参考としながら進めていきたいと考えています。



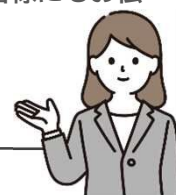
住民が同意できないまま審議会に諮問することは反対です。



皆様のご心配、ご懸念、反対の声をこれまでの意見交換会でお伺いしてきました。皆様がどのような点でご心配、ご懸念があるのか、また反対されていることが明らかになってきたと思っています。

その上で、そこまで明らかになったのであれば、「教育委員会としてはどのように考えているのか」、また「地域の方はどのように仰っているのか」について、審議会に諮問して、この状況を評価してもらうことは、今後の選択肢の中に入ってくると考えています。

教育委員会として審議会に諮問するかどうかは、改めて判断をさせていただきます。もし諮問するとなれば、そのことは何らかの方法で皆様にもお伝えをさせていただきます。また、皆様の心配の声や文書でいただいたご意見などを審議会委員にお伝えすることは、これまでも行っていますし、このケースでも行っていきたいと考えています。



統合(案)などについて、ご意見等ありましたら、下記までご連絡ください。

名古屋市教育局事務局 教育環境整備課

電話:052-972-3282 FAX:052-972-4176 E-MAIL:a3282@kyoiku.city.nagoya.lg.jp